

当院における QVA キャリブレーション精度の検討

【背景】

当院では EVT の治療効果を評価する方法の一つとして QVA(Quantitative end-Vascular Analysis)を行っている。QVA は冠動脈の QCA と同様、様々な要因で測定誤差が生じる。当院における QVA は専用のキャリブレーション棒を用いて計測を行っているが、キャリブレーションを行う際に最大の誤差が生じるとの報告もあり、当院の QVA のキャリブレーション精度の正確性を検討したので報告する。

【方法】

SFA に対してステントを留置した症例の proximal edge と distal edge を対象に QVA と IVUS で血管径を計測して比較を行った。

また、QVA 計測におけるキャリブレーションはガイドカテーテルで行う方法と専用キャリブレーション棒で行う方法に分けて比較を行った。

【結果】

図参照

【結語】

当院の QVA はガイドカテーテルでキャリブレーションを行った群に比し、精度が悪い結果となった。この結果はキャリブレーション棒と下肢動脈の高さの違いが原因と思われる、当日はこの誤差を修正しキャリブレーションを行った症例についても報告したい。

